

アムスルだより

No.44 2000年 7月11日

Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所



〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

<http://www02.u-page.so-net.ne.jp/pb3/saburo>

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@ryukyu.ne.jp



サンゴを守るカニ

-サンゴガニ(オウギガニ科)の仲間-

蒸し暑い日が続いています。風のとおり日かげにいるぶんには気持ちいいくらいですが、風のないところでは、肌がじっとりと汗ばんできて、こういう時は涼しい水の中にすむ生き物たちがうらやましくなります。こういうことを言うと、「食べ物を探したり、他の生き物に食べられないように逃げ回ったり、こっちもずいぶん大変なんだよ」という生き物たちの声が聞こえてきそうですが、中にはとても“いいらし”をおくっている生き物がいます。今回は、その生き物の話をしましょう。

阿嘉島のまわりには、わかっているだけでもおよそ 250 種というたくさんのサンゴがすんでいます。その形もさまざまで、木の枝のような形のものや、ドーム型のもの、岩にべったりと張り付いた平らなものもあります。今回お話しする生き物は、その中でも、枝のような形をしたサンゴにすんでいて、その名も“サンゴガニ”というカニの仲間です。本当は、「サンゴガニ」というのはごく限られた小さなグループの名前なのですが、サンゴにすむその他のカニもほとんどが「サンゴガニ」と同じオウ

ギガニ科のカニで、同じようなくらしをしているので、今回はそれらのサンゴにすむカニをまとめて“サンゴガニ”と呼ぶことにします。さて、その“サンゴガニ”たちは、ふつう甲らの幅が 1~1.5cm、大きくても 2cm くらいの小さなカニで、その小ささを生かしてサンゴの枝の細いすき間にはいり込んでくらししています。カニを食べるような大きな魚などは、このすき間に入り込むことができませんから、サンゴガニたちにとってサンゴの固い枝のすき間は、安心してくらすことのできるかくれ家なのです。私たちが手を出しても、すばやく枝の奥の方にもぐり込んでしまいますし、棒でひっかき出そうにもでこぼこしたサンゴの表面にしっかりと足でしがみつくるので、サンゴをこわさないかぎりつかまえることはできないでしょう。

いくつかの種類のサンゴを観察してみると、サンゴガニにも住みかとするサンゴに好き嫌いがあるらしく、枝のような形をしたサンゴでもコモンサンゴやハマサンゴの仲間にはすんでおらず、逆にハナヤサイサンゴやミドリイシの仲間ではよく見かけました。ちょっと探ただけでも、朱色のサンゴガニ、淡いピンク色のカバイロサンゴガニ、目と目の間の甲らに黒い線のあるクロエリサンゴガニ、紅いあみ目模様のアミメサンゴガニなど色あざやかなものやじみな色をしたキモガニの仲間などた

くさん見つけることができました。このカニたちは、いったい何を食べているのでしょうか。エサをとるときには、サンゴから出てくるのでしょうか。海の中で見えていても、研究所の水槽の中のものを観察していても、いっこうにサンゴから出てくる様子はありません。実は、このカニたちは、サンゴの出す粘液ねんえきを食べているのです。だから、サンゴの枝の間にながらにして、エサをとることができるのです。安全な住みかの中に食べ物がどんどん出てくるのですから、こんなにいいことはありません。

サンゴガニはこうしてサンゴから住みかと食べ物をもらってくらしていますが、これはサンゴが元気に生きているおかげです。ですから、おかえしにサンゴガニはサンゴが元気にくらすように手助けをしています。たとえば、ハナヤサイサンゴにすむサンゴガニは、サンゴの敵を追いはらおうとします。オニヒトデはサンゴを食べる生き物として有名ですが、このオニヒト

デがやってくると、サンゴガニは自分の何十倍もあるこの生き物に対して、ハサミでトゲをはさんだり、足を切ったりして激しく攻撃します。すると、やがてオニヒトデはサンゴを食べるのをあきらめて立ち去っていくのです。また、このあいだ研究所でサンゴを飼育していたところ、まわりのサンゴは元気がないのに、いくつかのサンゴだけが元気の良いことがありました。そして、よく見ると元気なサンゴにはサンゴガニがくらしていました。はっきりしたことはわかりませんが、サンゴガニがエサを食べたり動き回ったりすることでサンゴの表面が掃除されて、それでサンゴが元気でいられたのかもしれない。

このように、サンゴガニが生きていくためにはサンゴが必要ですし、サンゴが元気にくらす上でサンゴガニは大切な生き物です。小さくてちょこちょこ動き回るサンゴガニと大きく育ち動くことのできないサンゴは、その能力や性質はずいぶん違ってはいますが、違ってはいるからこそ、お互いに助け合って生きているのです。

阿嘉島の海より

-サンゴの産卵-

前回のアムスルだよりで予想したとおり、阿嘉島周辺では、5月の満月から7,8日後の5月25,26日に一部のミドリイシが産卵しましたが、多くは6月の満月から1,2日前の6月15,16日に産卵しました。また、座間味島では阿嘉島より1日遅い6月17日の満月の夜に大規模な産卵が見られたとの貴重な情報をいただきました。8月の満月の頃には、他の種類のミドリイシや多くのキクメイシ類が産卵する他、新月の頃に産卵するサンゴもいます。これからも、皆様からの産卵情報をお待ちしています。

